

三鷹の森 科学文化祭

5 地球 太陽系

mitaka taiyokei-walk
みたか太陽系ウォーク
2013



5回目を迎え、さらに充実!
みんなで参加しよう

9月21日(土)~10月27日(日)

地球が直径1cmになるように太陽系全体を13億分の1の大きさに縮め、太陽を三鷹駅に置くと、冥王星までの天体が市内にちりばめられます。「みたか太陽系ウォーク」は、三鷹のまち全体を太陽系に見立てて、参加店舗・施設にあるスタンプを押しながらまち歩きを楽しみ、太陽系の大きさや距離を実感するイベントです。開催5回目を迎えた今回は、参加店舗・施設も195カ所に拡大。国立天文台のある三鷹ならではのユニークでスケールの大きな体験に、ご家族やお友達、みなさんでぜひご参加ください。

☎三鷹ネットワーク大学 ☎0422-40-0313・同イベントホームページ HP <http://www.taiyokei-walk.jp/>



「みたか太陽系ウォーク」ここがおもしろい!

みたか太陽系ウォーク実行委員長

あがた ひでひこ
縣 秀彦さん(国立天文台准教授)

三鷹のまち全体が、13億分の1に縮小した太陽系となる「みたか太陽系ウォーク」。市内の店舗が参加するこのイベントを通じて、科学が文化として三鷹のまちに定着していくことを願っています。特に、今年には彗星(すいせい)の当たり年。冬には、とてもすてきな大彗星「アイソン彗星」がやってきます。彗星の到来を楽しみに、「太陽系のまち三鷹」を歩いて、子どもも大人も彗星や惑星探査機になったつもりで、まちを自由に飛び回しましょう。



同監修者

はんだ としひろ
半田 利弘さん(鹿児島大学理学部教授・理学博士)

科学で最も大事なことは、妥当な描像を持つことです。地球の直径12,700km、地球と太陽の距離1.5億kmと数字で言われても、そこからの確かなイメージを持つことは天文学者でも困難です。そこで、太陽系全体を縮めて、まちと重ねてみれば…。4年前から行っている「みたか太陽系ウォーク」は、そんな単純な発想を地元の多くの人の思いで実現したイベントです。まちを歩き、太陽系の広大さに思いをはせる、そんなひとときをお楽しみください。



楽しいイベントが盛りだくさん。くわしくは2面をご覧ください。

市長コラム

開園10年目を迎えた 三鷹市農業公園の魅力

三鷹市長 清原慶子

三鷹市新川にある「三鷹市農業公園」は、平成16年4月に開園してからちょうど10年目を迎えています。農業公園は、公園利用者代表、公募市民、体験農園主などの農業者、指定管理者である東京むさし農業協同組合の代表、市役所の部長などを委員とする「三鷹市農業公園運営懇話会」で話し合いながら、利用のルールや様々な事業を進めてきました。農業公園近くの圃場(ほじょう)をお借りして、野菜づくりコースと花づくりコースの「体験農園」を開講し、農業者を講師に農業を市民の皆様へ体験していただいています。園内の実習農園では、種まきや収穫の講習会や、ガーデニングなど年間10回以上の講習会が開かれています。

また、園内の緑化センターでは、出店者会の皆様朝採りの新鮮な野菜や花や産みだての卵などを即売していただいています。まさに、地域で産まれたものを地域で消費する「地産地消」と農業を身近に感じる拠点となっています。

このほかに、市では三鷹地区の農協と協働で「援農ボランティア」を養成しています。これまでに170名を超す修了者が「援農ボランティア」として実際に市内の農家で農作業を支援しています。毎年7月の親子の収穫体験教室「都市農業を育てる市民のつどい」も、農協の皆様と一緒に行っています。

また、昨年度は、三鷹地区の農協青年部の皆様「JA青年組織活動実績発表全国大会」で子どもたちから募集した「農のある風景画」を活かした独自の食育カレンダー「石興太郎記念賞」を受賞しました。

農のあるまち三鷹の誇りと喜び、それを具体的に市民の皆様にお示ししているのが、この農業公園です。都市農業をめぐる厳しい環境の中、これからは三鷹の農業を守り続けていきたいと思います。農業者の皆様とも出会える場所、農業公園がこれからは市民の皆様の大変な場所であり続けることを願っています。



白菜を作付けしている実習農園の前で

三鷹市長メールマガジン

市長のメッセージ、活動記録、部課長コラム、新着情報などをお届けします。登録は、市ホームページまたは携帯サイトからどうぞ。

